



絶頂期のマリア・カラス 伝説となった舞台の 貴重なライブ映像

《演目》

*ラ・マルセイエーズ (フランス国家演奏)

*ヴェルディ『運命の力』序曲

*ベッリーニ『ノルマ』より《清らかなる女神よ》ほか

共演：アルベール・ランス (テノール)

*ロッシーニ『セビリアの理髪師』序曲

*ブッチーニ『トスカ』第2幕

共演：ティト・ゴッピ (バリトン：スカルピア)

アルベール・ランス (テノール：カヴァラドッシ)

ルイ・リアラン (テノール：スポレッタ)

ジャン・ポール・ウルトー (バス：シャルローネ)

《指揮》 ジョルジュ・セバステイアン

《演奏》 パリ・オペラ座国立劇場管弦楽団、合唱団

《収録》 1958年12月19日 パリ・オペラ座 (ガルニエ宮)

フランス / 115分 / モノクロ / スタンダード / イタリア語 (歌唱)・フランス語 (ナレーション) / 日本語字幕 / 配給：T&Kテレフィルム ©ina

1977年9月16日 享年53歳で死去したマリア・カラス。その若すぎる死から40年あまり。史上最高の歌姫とまで称せられたマリア・カラスは未だその輝きを放っています。

そのカラスが満を持してパリ・オペラ座にデビューしたのが1958年12月19日でした。本作品は、そのガラ・コンサートの模様を撮影したライブ映像で、現存するマリア・カラスのアーカイヴ・フィルム中、最も完全な形で彼女の絶頂期を伝える貴重なものです。バックステージでのカラスを捉えたショットや、ガルニエ宮時代のオペラ座の様子なども必見です。

ごあいさつ

昨年2月、突然日本を襲った新型コロナウイルスの感染拡大は長期にわたり、社会のあちらこちらに暗い影を投げ落とし、社会に内在していた数々の問題点は一気に顕在化して、社会的弱者を直撃しています。

そんな今、コロナ禍で疲弊した社会に、いささかでもの元気をお届けしようと、私たちはこの企画を計画しました。

皆様方のご来場を心よりお待ち申し上げます。

10月7日(木) ①14:30 ②18:30 仙台銀行ホール イズミティ 21 小ホール

トーク 佐藤淳一氏

1回目上映前のみ

東京藝術大学音楽科卒業。同大学院独唱科修了。1990～1991年ミュンヘンに留学。1992年より仙台オペラ協会演奏部会員。現在、同会演奏部会員代表ならびに芸術監督。尚絅学院大学こども学類教授。

チケット

(各回時間指定、自由席)

前売券 2,500円 (一般・シニア・大学) / 当日券 2,800円 (一般・シニア)
大学生2,600円 中高生800円

※未就学児は入場できません。 ※ご入場の際はマスクの着用をお願いいたします。

※感染対策の一環で、お求めのチケット所定欄にお名前・ご住所・お電話番号をご記入いただき回収しております。ご了承願います。

お求めは

プレイガイド：仙台銀行ホールイズミティ21、仙台三越、カワイ仙台

または主催事務局に直接お申込みもできます

電話 022-225-0986 FAX 022-268-5264 (下記申込フォームをご利用ください。)

E-mail sendai@cinema-tohoku.co.jp

※お申し込み後、郵便振替用紙とチケットをお送りします。※お申込みの〆切は、**9月30日(木)**となります。

住所			
電話	FAXまたはEメール		
氏名	フリガナ	ご希望回 (○をつけてください)	ご希望枚数
		①14:30 ②18:30	枚